

## は し が き

昭和53年から3か年計画で進めてきた「情緒障害児の指導と治療」をお届けします。

激動する70年代は数多くの青少年問題を抱えたまま幕を閉じました。よく言われる青少年非行第3のピークと並行して、この10年間は登校拒否や緘黙の増加が目立ちました。

当教育センターは、昭和46年、47年に県内幼稚園・小学校・中学校・高等学校を対象として登校拒否児と緘黙児の悉皆調査と追跡調査を行いました。7年後の昭和53年、54年に同様の方法によって比較調査を試み、報告書第29号、第39号を通して70年代前半と後半における実態と特質および比較等についてお知らせしました。

当教育センターで行う研究が広く県内の教職員に御活用いただくことを願って「学級担任は登校拒否児や緘黙児にどのようにかわるか」という観点から研究協力校や当教育センターにおける事例を用いて「情緒障害児の指導と治療」のあり方を探ってみました。

更に、先生方が少しでも読みやすく活用しやすいようにとA5判にまとめました。当教育センターの報告書としては初めての試みで、内容もできるだけ読みやすいように心がけました。

多数の先生方から御活用いただければ幸いです。

この研究に御協力いただいた新潟市立小針小学校・小針中学校はじめ県内各地の先生方に心から厚くお礼を申し上げます。

昭和56年3月31日

新潟県立教育センター所長 風 巻 友 重